

# 平成29年度 地区別父母懇談会 開催

二松學舎大学  
父母会報



東京会場（7月30日）

平成5年5月10日創刊  
平成29年10月20日発行  
(第98号)

二松學舎大学父母会  
(本部・事務局)  
東京都千代田区三番町6番地16  
二松學舎大学学生支援課

題字は  
故 観山貞広堂吉先生書



平成二十九年度二松學舎大学地区別父母懇談会が、六月十日(土)の札幌市を始めとし、八月五日(土)まで全国九都市(開催日時順に札幌市・仙台市・水戸市・富山市・米子市・大阪市・千代田区「九段キャンパス」・長崎市・那覇市)で開催されました。

地区別父母懇談会は、父母会の主要事業の一つで、今年で二十四回を数えます。大学から学長・副学長・学務局長・学部長・両学部の教員及び職員が分担して各地に赴き、父母との懇談を行いました。

懇談会の内容は大学の現況、本学の教育方針、学習状況・学生生活・就職状況等についての説明、個別相談でした。父母の関心が高かったのは、「大学の現況報告」と「学生の学習状況について」でした。

九段キャンパスでは、キャリアセンターによる「就職を取り巻く環境変化と支援の在り方」学生/企業への影響を理解し、有意義なサポートを考える」の講演、教職支援センター・特別講演会として、この春に本学を卒業した新任教員から教員採用試験の体験談を話していただき、好評を博しました。内容については、七頁に掲載していますので、ご一読ください。

六月十日(土)の北海道を皮切りに全国各地で地区別父母懇談会が開催され、父母と大学教職員の交流が行われました。その内容を寄稿していただきました。

# 北海道会場

竹内 正信

北海道で地区別父母懇談会が開かれるのは四年ぶりとのこと。

懇談会が開かれた六月十日(土)は、雨が降っていたために寒さが際立った日でした。

悪天候の中、大学から文学部長である江藤教授、教務事務部の西園部長、教務課の鈴木係長の三名がはるばる来札されました。

資料によれば北海道出身の学生は十三名とのことですが、五組七名の父母が出席しました。

大学側から年間のスケジュール、行事、専攻ごとの必須講義、卒業のための要件、進路などについて詳しい説明があり、それを踏まえ、いくつかのやり取りが交わされました。質疑というより、大学側と親側の情報交換という感じだったでしょうか。資料やデータに表れない点についても、いろいろとお聞きすること

ができました。

昼食をはさみ、個別の相談時間も取られました。個人的には、大学時代は様々なことに触れながら成長していく時期なので、講義の出席率に一喜一憂せず、許された範囲での出席率を下回らない中で、様々な体験、経験をしながらか成長していく姿を見守るという考え方もあるのではないかと、というお話をお聞きし、大学当局の真摯に学生の成長を願う姿勢が感じられました。



# 宮城会場

西田 裕子

東北地区の父母懇談会が、六月十八日(日)、ホテルベアエア仙台を会場に行われました。

大学からは、菅原学長、小沢洋之教務課課長補佐、濱野学入試課課長補佐、教務課の中川智弘氏の四名にお越しいただきました。また、松琴会宮城県支部の支部長さんもおいでになり、二松學舎大学の古き良き時代のお話をして下さり、和やかなムードで懇談会が始まりました。

菅原学長からは、十八才人口の減少の中での大学の経営、創立百四十年の記念行事、卒業生の就職状況など大学の現況をお聞きしました。

また、来年度からは国際政治学部、国際経営学科が新設されると聞き、内心驚きましたが、国語力の二松學舎であると共に国際社会でも活躍する人材を輩出する大学として、今後更に発展されるであろうことを想い描いたところでした。

個別面談では、特に時間を取っていただき、じっくりお話をすることができました。娘は現在四年生です

が、聴覚障害があり、そのためにノートテイクや人工内耳に必要なマイクの装着、連絡事項などきめ細やかな配慮をしていただいています。講義などの聞き取りができるかと心配していましたが、友人にも恵まれ、幸せな学生生活を送ることができて安心いたしております。

懇談会には三回目の出席でしたが、いつも有意義な時間を過ごさせていただき、心より感謝申し上げます。



# 茨城会場

湯本 文子

六月二十四日(土) 十一時より、茨城会場の地区別父母懇談会がプレジデント水戸にて開催されました。大学からは中山国際政治経済学部 長、瀧田学務局長・文学部教授、小沢教務課課長補佐、山口学生支援課 課長補佐、間宮教務課係長の五名が御出席され対応して頂きました。

懇談会では、先生方より資料に基づき大学の現状、学生の学習状況・学生生活についてなどに対して、きめ細やかな説明を聞かせて頂きました。漱石アンドロイドの制作課程の話はとても興味深いものでした。参加した父母の中には「定期総会に出席して実際に見て来ました。」という方もいて、私もその一人だったので親近感を感じ嬉しくなりました。また、本年は二松學舎創立百四十年。「二松學舎ブランド」と言われる由縁である少数精鋭の丁寧な教育態勢の話もあり、改めて娘が歴史伝統ある学校で学べることに幸福と感謝の念を感じました。昼食後は、自己紹介を兼ねた意見交換と個別相談があ



りました。娘の出席状況やゼミの先生からのコメントも用意して頂き、娘が真面目に学校生活を過している様子が分かり安心しました。最後に、このような有意義で素晴らしい懇談会を開催して下さった事に感謝すると共に、二松學舎大学及び父母会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

# 富山会場

佐伯八千代

七月一日(土) ホテルグランテラス富山にて地区別父母懇談会が開催されました。大学からは文学部教授磯副学長、教務事務部西園部長、教務事務部学生支援課勇係長にお越しいただき、父母側は富山県と石川県から七名が参加されました。

懇談会では、本年が創立一四〇周年であることや、大学の教育改革計画をご説明頂き、改めて息子が二松學舎大学で学べることを嬉しく誇りに思うことができました。

また、時間割表や成績表を見ながら解説頂き、順調に単位を取得できていることも知ることができました。そして、ゼミの教授からのコメントを聞いてきてくださったことで、日頃の大学での様子をより深く知ることができ、安心いたしました。続けて、個別面談もしていただきました。当日希望にも関わらず、大学側からは息子の資料もすっかりご準備していただいております。就職活動について不安や不明に思う部分の質問に対しても明確にご回答頂き、も



やもやが少し解消されました。来年も会場や日時が合えば、是非参加したいと思えます。最後にありますが、このような機会を設けて頂き、心より感謝いたしますと共に、今後も大学及び父母会の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。



# 鳥取会場

佐城 潤三

地区別父母懇談会が七月八日(土)米子市の米子全日空ホテルで開催されるというご案内をいただき、自宅から車で五分ほどの距離ということ、またとない機会と思い出席することにしました。

懇談会当日は、大学から山口市生支援課課長補佐と小沢教務課課長補佐の二名にご出席いただき、父母二名の参加で開催されました。会場に入る際、在学者数が非常に少ない地域なので、私以外に参加者がいらっしやるのかすごく不安な気持ちでしたが、広島から来られた方がおられたので、少しホッとしました。

全員で四名ということで附属高校の野球部のことや山陰地方の観光地などの雑談を交えながら大学の概要について説明を受けました。中でも、漱石アンドロイドについては、以前ニュースで取り上げられていたので興味深く聞くことができました。次に、学習状況の説明がありました。我が子と離れて生活しているので、時間割やゼミの様子を聞くことがで



き安心しました。

最後に、地方のまた学生数の少ない地域でもこうして懇談会を開催してくださることで、大学との距離が少し縮まったと感じました。まだ懇談会に参加しておられない方は、ぜひ一回は参加して見られたら良いと思います。

# 大阪会場

尾崎 智美

七月九日(日)大阪市のホテルサントリート梅田にて父母懇談会が開催されました。大学からは副学長の高野和基国際政治経済学部教授、西園隆士教学事務部長、本学職員の方の計三名に御出席を頂き、三名の父母が参加されました。昨年は入学してすぐに父母会の案内が届きました。が、関西地区での開催はなく残念に思っております。今年は大坂会場も開催される案内が届き出席でハガキを出しましたが、参加者が私一人なのでは? と少し不安を持つての参加でした。他にお二人参加されており、子供の事や色々な話を聞かせてもらい、和やかでアットホームな雰囲気楽しく参加させて頂く事が出来ました。

二松學舎に入学が決定し、子供と上京した際に九段キャンパス一号館を外観のみ拝見しただけで大学の行事に参加するのは初めての事でしたが、大学の現況や学生生活、学習状況、就職活動状況等について分かり易くお話を伺いました。



また個別にも成績通知書や二〇一七年度の時間割、ゼミの先生からのコメント表もいただく等、子供と離れており不安な事もあります。が、大学内での様子を別の角度から知る事もでき、細やかな対応や参加させて頂きました事に感謝しております。

最後に遠方の関西地方でも父母懇談会を開催してください御礼申し上げますとともに、今後の大学及び父母会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

# 東京会場

## 宮脇多美子

地区父母懇談会が七月三十日(日)に九段キャンパス中洲記念講堂で開催されました。菅原学長、磯副学長、高野副学長、江藤文学部長、中山国際政治学部長ほか、保護者面談にも多くの指導教授の方々にもお越し頂きました。

父母副会長、学長挨拶の後、各学部長より、現況の報告がありました。きめ細かな丁寧な指導をして頂いていると感じました。その後、履修登録や卒業要件、成績通知書の説明がありました。現在、娘は三年生ですが、GPAのことなどが全く理解しておらず、成績表をきちんと見れていなかったのだと思い、今回、参加しておいて良かったと感じました。

中洲講堂での説明の後、就職に関する講演会を聞かせて頂きました。リクナビ副編集長の大川良子さんの講演でしたが、現在の就職活動状況がわかりました。就職活動はまだ先と思っていました。インタビューシツプ等、今からでも積極的に活動す

ることもできるのだとわかりました。親として就活をする娘にどの様に接していけば良いのかとても勉強になりました。

当日は、個人面談も希望していましたが、担当教授が出校されてなかった為、直接お話を聞くことはできませんでした。でも、成績やゼミの様子をお手紙でお知らせ頂き、娘の大学での様子を少しでも知ることができ有難かったです。

二松學舎大学は娘の学びたい学科があるということで入学させて頂きました。学問だけでなく、この先社会に出てから必要な知識なども学んでもらいたいと思います。大学側は学生の為に様々な努力をして頂いているのがよくわかりました。これからも益々の大学並びに父母会のご発展をお祈りいたします。



# 長崎会場

## 横山 知美

八月五日(土)十一時より、ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルにて父母懇談会が開催されました。

大学からは教学事務部西園部長、教務課鈴木係長にお越し頂き、福岡、熊本、長崎より父母五名が参加しました。

初めに大学の現況、N2020からN2030へ、一四〇周年事業、本学の現況の説明を受けました。

一四〇周年事業である新学科の設置・漱石アンドロイド作成プロジェクト・基礎ゼミノート・記念論文集等の取り組みは進化する二松學舎大学を期待できるものでした。

続いて懇談会資料に沿って話は進み、学習状況・学生生活では、学生それぞれの時間割・出席状況を調べて頂いており、リアルな学校生活を想像しながら説明を伺いました。

意見交流の場では、キャリアセンタ―の利用法・学食の話・今どきの子供達の持つ夢事情、公式キャラクターのねこ松の話など、楽しく和や

かな時間を過ごし、個別相談へと移りました。帰り際頂きましたゼミの先生からのコメントは、離れて暮らす息子へ抱えていた不安をすべて吹き消す内容が書かれており、帰って、何度も何度も読み返し、子供の成長を噛みしめました。

二松學舎大学へ入学して良かった。この充足感をたくさんの方に味わって頂きたい。遠く離れた地方からですが、そう願ってやみません。

このような機会を下さいました大学教職員の皆様方に心より感謝申し上げます。









# 就職に関する講演会

(於・地区別父母懇談会東京会場)

演題◎「就職を取り巻く環境変化と支援の在り方」学生／企業への影響を理解し、有意義なサポートを考える」

講師◎株式会社リクルートキャリア

リクナビ副編集長 大川 良子氏

今年度の地区別父母懇談会東京会場では、本学の学生の多くが利用している「リクナビ」の副編集長である大川良子氏に講演をお願いしました。就職活動の背景理解に役立つ社会動向の現状にも触れつつ、スライドとレジュメを用いてお話し頂きました。

講演のテーマ構成は①保護者世代

②の就職環境の変化③現在の就職環境④保護者としての接し方、の三つを柱としておりました。

まず、「人口減少」の観点からわが国の人口統計や今後の予測、労働人口の減少と企業側の人材確保の課題、「産業構造の転換」では、過去に日本の産業を牽引してきたいわゆるメーカーの減少、新興している医療や福祉・サービス業について、「第四次産業革命」の項目では、IoTやAIの時代を迎え、テクノロジーに置き換わる仕事の増加、「価値観の多様化」では、昨今話題に取り上げられることの多い「働き方改革」等にも触れながら、今年の就職活動学生を取り巻く環境変化を解説されました。

一九八〇年代の「情報誌世代」と現在の「WEB世代」の採用フローの変化、求人倍率の業種別・企業規模別のデータ解説を基に学生が就職を希望する人気業界と、今後人材が必要とする成長産業界の乖離部分の

お話については、就職活動で陥りがちな負の連鎖（活動しても内定がとれない）の一因となっている点について、多くの方が意識を新たにしていただくようでした。

就活スケジュールでキーワードになっている「インターシップ」については、二松學舎大学学生のリクナビ利用数とインターシップ応募数の増加データを参照しながら、採用プロセスで重要になっているインターシップに本学の学生も意識的に取り組んでいることを取り上げていました。

インターシップの成果を上げるには、早期に企業研究・自己分析が必要であることから、現四年次生の場合には、三年次の六月から実際の採用スケジュールが始まっていたとの説明に、下級年次生のご父母は熱心に聞き入っていました。その要旨としては、短期決戦型になっている就活で学生が悩むポイントは大きく三つ、「企業研究不足」「業界研究不足」「自己分析不足」で、この改善対策にインターシップが効果であり、就職活動がはじまる前の期間に「働く」を知ることができる機会・職業観を育むことができる機会であるインターシップを活用しよう、というお話でした。

企業側が学生に求める力も変化してきており、現場での対応力・課題解決力、戦略的に最適な解を導きだ



せる力、自律的行動力などがあげられるとのことでした。学生が面接等でアピールしがちな「アルバイト体験」は企業側では重要視しておらず、入社後の可能性と企業風土に合う人材が重視項目上位となっていることは、ぜひご子女にもお伝えいただきたい内容でした。

当日の講演の締めくくりで、講師からもお話しがございましたが、就職情報サイト運営企業だけでなく、大学キャリアアセンター発信の情報も収集し、困った時はキャリアアセンターに相談に行くということを、ご家庭で就職活動の話題となった際は、ご家族からお話し頂ければ幸いです。

## 平成29年度 短期海外語学研修報告

本年度の夏期（八月十三日から三週間）における英語圏短期海外語学研修は、初めて同時に二つのコースが設定され、学生十五名が新規開催のケンブリッジ大学（英国・七名）と二度目の開催となるダブリンシティ大学（アイルランド・八名）に参加しました。

### ●国際交流センター事務室 室長 齊田智明

引率した英国での研修は、国際的に高い評価にあるケンブリッジ大学独自の教育手法をもちいた「グローバルリーダー育成研修」となっており、一般的な語学研修ではなく、英国伝統の全寮生活、ケンブリッジ大学学生のサポート、同大学講師による講義など独自の内容が多く盛り込まれ、「英語をとことん使う」内容でした。英語での意見発表、議論が多く行われ、コース修了時にはグループプロジェクト（研究）の完成が求められました。研修中は学生と講師との距離が大変近く、参加型の授業であることから、集中力を欠く学生はおらず、積極的に発言している七名の学生の姿が印象的でした。本学学生は各グループでリーダーシップを発揮する場面も多く、おおいに存在感を示しており、とても頼も

しく感じました。生活環境となるキャンパスは歴史的な建築物や英国風の中庭があり、周辺環境も美しく、快適で安全な印象を受けました。参加学生からは「成長できた」という声が寄せられました。また、アイルランドでの研修は、海外が初めての学生でも安心して参加できる一般的な語学研修となっており、おだやかな国民性で知られるアイルランド人家庭でのホームステイでの生活を体験できるものでした。自由時間も多く設定されており、ゆったりとした留学生生活を体験できる研修です。日本からの直行便がないアイルランドへの移動は、日本の自宅を出発してから二十四時間近くかかるため、当初は疲れが出た学生もいましたが、すぐに生活に慣れていきました。

現地では、英語能力別にクラス編成が行われ、午前中に授業、午後は各種文化活動（市内観光、講義、移動教室等）で過ごします。夏期は現地の受入の繁忙期であるため、近隣の受け入れ家庭数が不足することにより、通学に一年以上かかる学生もいましたが、通学時間も海外での貴重な体験として受け入れていました。

研修内容は、学生からの満足度が高く、独自性・快適性といった特別な印象はないものの、バランスのとれた価値のある研修に感じられました。ホームステイ先での居心地が重要であることから「食事が素晴らしくおいしい」といった幸運な学生の意見や「シャワーがしっかり出ない」といったリアルな情報などを学生同士が交換しながら、それぞれのホームステイの生

活の違いを感じていました。参加学生からは「楽しめた」という意見が寄せられました。どちらもその国のお国柄、文化を色濃く体験できる研修だと思われしました。今後も本学ならではの独自性と魅力あふれる短期語学研修を提供し、多様な学生の目的に合った留学の選択肢が増えていければ嬉しく思います。



ケンブリッジ大学ホマーントンカレッジにて



## アイルランド ダブリンシティ大学語学研修報告

●文学部 国文学科 三年 宮脇朱音

今回はアイルランド・ダブリンシティ大学に短期留学しました。アイルランドに着いて最初に思ったことは寒！でした。八月夏真っ盛りなのに上着を着て過ごしました。また出発する前のガイダンスで日本よりも治安が良くないから注意するようにと言われ、留学は勿論海外も初めてな私はとても不安でしたが、実際に行ってみると自然豊かなのどかな街で現地の人々もとても優しく何度も助けられました。

海外で他国の人と授業を受けるということはとても新鮮でした。日本の授業と言えば学生は基本黙って先生が話すというもので「静かにしなさい」という言葉はとても馴染み深いものでしょう。しかしアイルランドでの授業は先生や学生同士で話したり、ある学生の昔話を聞いたりして授業をするという感じでした。逆に先生が「静かすぎる！」と言う時もありました。英語という言葉を学んでいるからなのか正しいか否かというよりも話してなんぼという



ように感じました。あと地味に驚いたのが海外には電子辞書がないということでした。

アイルランドに留学した私たちの宿泊先はホームステイです。ここで苦戦したのが現地の人達の英語でした。訛りなのか私たちが習ったアメリカ英語とは発音が違うことが度々あり混乱に陥りました。それでも過ごしていくうちに耳が慣れ少しずつ聞き取れるようになり会話が出来るようになっていくのが嬉しかったです。

初めての海外ということもありとても不安でしたが新たな発見や初体験が多く参加して良かったと思えました。

最後に家族や親戚、関係者の方々そして一緒に参加した皆さん本当にありがとうございました。

## イギリス ケンブリッジ大学ホマーントンカレッジ語学研修報告

●国際政治経済学部 国際政治経済学科 三年 松川裕丈

八月十三日ヒースロー空港に到着し、私の約三週間の留学生活が始まりました。ロンドンの中心から北に向かつて一時間(鉄道)ほどのところに、ケンブリッジがあります。ここには、いくつもの大学や研究所が集まっており、学ぶ場としてこの上ない環境が整っています。その一つが、私たちの通ったホマーントンカレッジです。大学の施設は、ハリポッターのような重厚な校舎と現代の校舎がバランスよく調和し、緑に囲まれた素晴らしい大学です。授業は、午前と午後に分かれ、午前中は、ほぼ毎回異なる分野の講師によってテーマが設定され、その講師と一緒にクラス全体で、テーマに対して議論していきます。午後は、クラスごとの担任に、「イギリスの文化やマナー、音楽など」を学びました。クラスに関しては、初回の授業で行う「スピーキングテスト」と「ライティングテスト」を基に、レベルごとにクラス分けが行われます。また各クラスにはTA(現地の大学生)が付いてくれています。授業中には、一人の先生として、一人ひとりに声をかけ、授業に対する理解を助けてくれます。授業外では、一人の友人として、一日の喜びや悲しみを共有し合い、時には、一緒に

ロンドン観光やストーンヘッジなどの世界遺産巡りもしました。まさにイギリスの友人です。もちろん全て英語で「会話・授業」をするので、ストレスも感じます。しかし、自分の発言に対して誰かが共感してくれたり、そこから会話が盛り上がった時は、英語を話す自信がきます。この留学は、私がグローバルリーダーになる第一歩になったと信じています。



「インターシップ」について

例年、三年次生を主対象に春から開講しているインターシップ特別講座（今年度は月曜4限）の受講生を中心に、民間企業や官公庁、地方自治体等に本学からも多くの学生が参加いたしました。今年の傾向としては、公務員インターシップの希望者が増加したのが特徴です。

特別講座でのインターシップ派遣の手順は、事前指導（マナーや履歴書添削。業界研究など）を経て、

大学と協定している企業に受入を依頼することになります。これは「職業体験・社会体験」というインターシップ本来の趣旨に沿ったプログラムです。

公務員を含め自由応募型のインターシップは受入先で「選考」が行われます。

希望者全員が参加できるわけではありません。いずれの場合も、自己アピールや志望動機、経験してみたい職種についてなどの書類選考が課されます。この選考を通過するには、三年次の夏の時点で少なくとも「自己PR」が作成できることが必須と言えます。

学内では春 semester 前半に、インターシップのガイダンスや、イ

ンターシップ経験者との座談会などを実施しており、来年度も継続して計画をいたします。来年度に三年次生になるご子女のご父母の皆様には、「自由応募型インターシップに興味があるなら春 semester から準備が始まる」旨、ご家庭でもお伝え頂ければ幸いに存じます。

また、今年度の一・二年次生対象に、十月三十日(月) 4限に、春期

インターシップ講座の説明会と三年次生のインターシップ経験者の交流会を企画しております。月曜日の4限が空き時間の一・二年次生に学内で参加を告知する予定です。



「三年次生対象の就活ガイダンス」について  
十一月下旬から、来

年四年次となる学生向けの各種ガイダンスが行われます。

日程は、学内の掲示や、既に先月実施したスケジュールガイダンスで対象者にはお知らせしております。

年末からは就職のための役立つ講座が複数開講されますので、キャリアセンターからのお知らせを見落とさないよう、また積極的に活用するようご子女にお勧めくださいますようお願いいたします。

願いたします。

二松學舎大学父母会成長支援型(資格・能力取得育英)奨学生の募集

父母会では標記の奨学金について、下記のとおり募集しますので、奮って応募してください。

応募書類は一号館三階学生支援課で配布しています。

記

一 主旨

父母会では本学の建学の精神及び本学が果たしてきた社会的役割を継承し、一層の発展を期すると共に、本学学生の勉強環境支援を図るため、標記の奨学金を設けました。

二 応募資格

本学に在籍する学部生で、下記のいずれかに該当する者とする。

- (一) 公立学校教員採用試験合格者
- (二) 公務員試験合格者
- (三) 父母会が指定した資格の取得者

(平成二十八年十一月十八日、平成二十九年十二月十六日に取得したもの)

三 給付額

二松學舎大学父母会成長支援型(資格・能力取得育英)奨学金支給要項 別表一の対象となる試験及び資格ごとに定めた奨学金支給区分に従って支給する。

四 応募期間

平成二十九年十一月六日(月) 十一月十七日(金)

受付時間

- 平日 九時～十六時三〇分
- 土曜 九時～十三時

五 書類配布・提出先

一号館三階 学生支援課

六 結果発表

平成二十九年十二月七日(木)に学内掲示、及び郵送にて通知します。

※詳細は、父母会ホームページまたは、二松學舎大学父母会成長支援型(資格・能力取得育英)奨学金支給要項・申請書(配布資料)で確認のうえ、申請手続きを行ってください。

二松學舎大学父母会事務局

災害、少子化、国際問題や雇用問題など、不安の種のつきない時代です。わたしたちは不安を感じると、この先にもっと悪いことが起こるかもしれないと恐れ、身動きがとれなくなることがあります。不安というきもちは突きつめれば死を恐れることにつながり、わたしたちは本能的に身構えてしまうものなのでしょう。しかし、ふしぎなもので、不安とは、じつとすればするほどムクムクとふくらんでしまうものです。身をこわばらせ、恐ろしさのあまり薄眼をあけて、狭い視野から垣間見る世界は、ますます不安なものに映り、わたしたちはますます身をかたく閉ざします。皮肉なことに、死への恐れからの身構えが、生き生きとした生命感をうばっていくのです。

心理学には数多くの理論がありますが、不安への対処として、「自分が不安であることを受けとめつつ、行動する一步を踏み出すこと」がよくいわれます。生きていく以上、不安になるのはあたりまえ、とした上で、思いきって

**学 生 相 談 室**  
**だ よ り 98**  
カウンセラー **中島由宇**

動いてみるのです。「幽霊の正体見たり枯れ尾花」というように、眼を見開いて動き出してみれば、なあんだそんなに恐れることもなかった、ということは案外多いものです。とはいえ、その一步はとても勇気がいります。「思いきって行動して、それで失敗したらどうするの」と、不安のループに戻ってしまいがちです。学生相談室では、皆さんの不安に寄り添い、その一步を見守らせていただくことがあります。みずから一步を踏み出した学生さんの、すつと力の抜けたおだやかな表情に、すごいなあと感じ入ることもしばしばです。

大学時代は、試しに一步を踏み出し、たくさん失敗できる、貴重な時間です。いや、一步を踏み出すのに年齢制限はありません。不安や安心は人から人へ伝わるものです。ご家族が、変化を楽しんで生き生きとくらし、不安から解放されることで、皆さんの安心に一役買うかもしれません。

※ お詫び ※

二松學舎大学父母会報第97号(平成29年7月31日発行)5頁の「平成29年度役員」に誤りがありました。再度、掲載させていただきます。読者の皆様並びに役員の皆様にご迷惑おかけしたことを深くお詫び申し上げます。

父母会事務局

平成29年度役員

氏名	役職	学年 (お子様の所属)
南 條 麻 里	会長	4年
瀧 田 浩	副会長(学務局長)	
宮 脇 正 裕	副会長	3年
酒 井 継 美	委員	4年
結 城 文 子	委員	4年
久 田 恵 美	委員(会計監査)	4年
鈴 木 千 晶	委員(企画)	3年
安 達 香 里	委員(企画)	3年
白 根 真 弓	委員(企画・会計監査)	3年
加 藤 典 子	委員(広報)	2年
後 藤 眞 代	委員(広報)	1年
田 中 清 美	委員(広報)	2年
中 澤 稔	委員(広報・会計)	2年
小 柴 有 佳	委員	1年
新 郷 尚 美	委員	1年
由 川 志 織	委員	1年
工 藤 恵 美	委員	1年

附属高校野球部に  
甲子園出場の  
お祝をお渡ししました

すでにご存知のことと思いますが、附属高校野球部が、三年ぶり二回目の夏の甲子園大会出場し、ベスト一六まで進みました。甲子園出場に際し、二松學舎大学父母会では、八月三日(木)、南條麻里父母会長が附属高等学校を訪問、本城学校長にお祝をお渡ししました。



南條会長より本城校長へお祝を贈呈



# 高岸ゼミナール

# 塩沢ゼミナール

私たち、国際政治経済学部高岸ゼミナールは、会社法にまつわる様々な事件をメンバー全員で話し合い、裁判所の見解とすり合わせることで事件の背景を読み解いていく、今大学が求められているモデルケースのような場所です。会社法にまつわる事件と一口に言っても、地裁で争われるような身近なものから、最高裁での決着を必要とする大きな事件まで、その種類は様々です。

今年の四月からゼミ生として会社法を深く考えるようになった私たち二十人にとって、向き合う事件の一つ一つが「初めましての難敵」です。

そんな私たちに何をどう考えればよいか、高岸先生は常々問いかけてきます。

大きな事件の中には隠れた小さな問題がいくつかが存在し、それらを確実に読み解いていくことが解決への糸口となる。逆に言えば一つでも間違えた見方をしてしまうと、誤った見解へ入り込んでしまう。そんな怖さがある中でどう立ち向かうか、今私たちゼミ生は必死に模索しています。

塩沢ゼミは二〇一六年度に新設されたゼミナールです。『万葉集』の代表歌人でもある大伴家持の歌を中心に研究しています。現在は第一期生が十一名、第二期生が二十名在籍をしています。特に、塩沢ゼミでは、「学生間の学び合い」を大切にしています。一平さん(先生と呼ばないでほしいと言われています)は古代和歌・歌謡論、歌謡曲・J・POP論などを専門分野としており、ゼミ生は万葉集の先行研究の知識だけでなく、歌謡曲やJ・POPなどと比較することで、新しい思考で万葉集をより深く掘り下げ、議論を繰り広げています。

夏季休暇には万葉集にゆかりのある土地でゼミ合宿をしています。昨年度は奈良県、今年度は富山県に行きました。普段のゼミナールでは触れることのできない、万葉の歴史や歌が詠まれた景色などを実際に体感し、ゼミナールの研究により磨きをかけています。

また、合宿やゼミナールだけ



こうした日々の授業を経て、私自身着実に成長している実感があります。

これまでいろいろな面でおおざっぱな性格を指摘されてきた私も、一歩間違えればすぐ先生からの軌道修正が入る環境の中で、慎重に考える癖が段々についてきました。あとは卒業までの残り一年半で、慎重さを保ちつつ、どれだけ考える速度を上げられるか、これが自分の当面の課題だと感じています。

一人一人がこうした課題意識をもって切磋琢磨しあえるこの高岸ゼミは、心地よい緊張感があり、大学生生活をより満足のいくものにしてきています。

国際政治経済学科 三年 山下雄大

でなく、それ以外の時間を有効活用し、ゼミ生が『万葉集』を学ぶ機会を企画し設けています。

上野動物園で万葉集に登場する動物の鳴き声を聴いて、見て回りました。

忙しい中、一平さんも毎回、学生が企画したイベントに喜んで参加をしてくださいます。一平さんも『万葉集』にまつわる学会やゼミナールへの参加を呼び掛けてくださります。

そして様々な個性をもった学生が在籍している塩沢ゼミでは、勉強だけでなく、歌って踊れる無邪気な一面をもった一平さんとともに楽しい時間を過ごしています。

国文学科 四年 栗原彩乃



## 編集後記

附属高校野球部の三年ぶり二度目の甲子園出場で熱くなった夏も終わり、秋も深まる中、父母会報九十八号の発行となりました。

今年も六月から八月までの間、地区別父母懇談会が開催され、合計二四世帯、二九〇名の方々の出席がありました。

アンケートに記入いただいた感想やご意見は、今後の活動に反映していきたいと思っております。ありがとうございます。

十一月は、父母会成長支援型奨学金の申請期間となっております。教員採用試験合格や父母会指定の資格取得の学生に父母会から奨学金を支給しております。支給区分および金額等の詳細は、ホームページに掲載されていますが、今回、見直しにより司法書士と行政書士が支給対象資格として追加されました。

この奨学金の支給制度は毎年行っておりますので、学生生活の励みになり、支給される学生が増えていくように、応援していきたいと思っております。ご応募お待ちしております。

最後になりますが、発行にあたりご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。